

公立大学法人富山県立大学
平成28年度の業務実績に関する評価結果

平成29年7月

富山県公立大学法人評価委員会

I 全体評価

(全体としての評価結果)

中期計画の達成に向けて概ね計画どおり進んでいると認められる。

富山県立大学は、平成2年4月に、日本海側初めての工学系公立大学として開学して以来、教育、研究、地域連携等を積極的に推進し、多くの有為な学生を社会に輩出するなど、地域及び産業の振興に大きな役割を果たしてきている。

一方で、少子化を背景とした大学間競争の激化、グローバル社会への対応など、これまで以上に、教育、研究、地域貢献活動を充実・強化し、地方創生の一翼を担い、県民や地域の期待に応える魅力ある大学づくりを推進していくことが求められている。

こうしたなか、富山県はもとより、日本と世界の学術文化の向上と地域及び産業の振興、社会の発展に寄与することを目的とし、平成27年4月に富山県立大学は公立大学法人富山県立大学(以下「法人」という。)に移行した。

平成28年度は、公立大学法人に移行して2年目となるが、初年度から引き続き、理事長及び学長のリーダーシップのもと、責任ある意思決定を迅速に行える機動的な運営に努め、その業務実績は、全体として高く評価できる。

特に評価する事項として、産業界のニーズに基づき、平成29年度に「情報システム工学科」と「環境工学科」を「電子・情報工学科」と「環境・社会基盤工学科」へと変更し、入学定員の増員と教育研究分野の充実・強化を行うとともに、「医薬品工学科」を新たに設置したが、それら所要の準備を迅速に進め、また、平成30年4月の「知能ロボット工学科」の設置や、平成31年4月の「看護学部」の開設に向けても、国や関係部署との協議・調整を着実に行った。

これらの学科の拡充・新設、入学定員の増員（平成 27 年 4 月から平成 29 年 4 月までに入学定員を 100 名増員）に加え、現在、設立団体である県と一緒に準備を進めている新校舎の建設など、将来を見据えた上で、活気と魅力にあふれる大学づくりに取り組んでいることは、高く評価できる。

また、厚生棟・体育館に談話・学習室の新設、ロッカー室、女子更衣室の拡充等を行うなど、学生の学習環境の整備にも積極的に取り組んだ。

さらに、科学研究費補助金などの競争的研究資金の申請に努め、その結果、科学研究費補助金については、採択件数、新規採択率ともに前年度を上回った。

そのほか、地域課題解決への貢献として、少人数ゼミを中心に、地域との対話・交流・協働を行う地域協働授業について、前年度を上回る 70 ゼミで実施し、学生の成長度評価を実施した。

今後の課題としては、学科の拡充・新設、入学定員の増員を進めてきたところであるが、大学の規模が大きくなり、学生や教員の数が増えていくことなどから、設立団体である県と協力しながら、それらにしっかりと対応できる体制整備や施設整備等に引き続き取り組むことが求められる。

また、学生の県内企業就職率の向上も大学の大きな使命であり、引き続き、企業、民間団体、大学コンソーシアム富山など様々な機関と連携を密にし、取り組みを強化していくことが望まれる。

さらに、平成 30 年代に再び顕著となる 18 歳人口の減少を見据え、県内外から優秀な学生を確保する必要があることから、大学としての魅力を高めることはもちろんのこと、大学の認知度を高めるためにも、北陸新幹線沿線地域での大学説明会の強化や広報媒体の更なる活用など学生募集活動の充実強化が求められる。

そのほか、安全衛生管理については、防災訓練の内容の見直しなどに取り組んだところであるが、より一層、安全管理、危機管理体制の強化を図る必要があることから、危機管理マニュアルの整備に取り組むこと

が求められる。

今回の法人の自己評価による業務の見直しと併せて、この委員会の評価結果を法人の業務運営の効率化等のために積極的に活用し、教育研究の一層の充実や地域社会に貢献する大学づくりを推進することで、中期目標が着実に達成されることを期待する。

II 項目別評価

1 教育に関する目標

(1) 評価結果

評価	A	(中期計画の達成に向けて)計画どおり進んでいる。
----	---	--------------------------

(2) 評価の判断理由

教育に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された76項目のうち、2項目が「IV 計画を上回って実施している」、71項目が「III 概ね計画どおりに実施している」と認められたが、法人が「II 計画をやや下回っている」と自己評価した3項目（キャリア形成支援に係る県内就職の定着の取組み等）については、実態として、計画を下回っているとまでは言えないことから、これらの状況を総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

厚生棟・体育館に談話・学習室の新設、ロッカー室、女子更衣室の拡充等を行うとともに、駐車場、駐輪場を整備するなど、魅力ある教育施設の整備に取り組んだ。

(4) 今後の課題とする事項

一般入試において長野会場を新設するなど、様々な取り組みを行ったが、入学定員を増員したことなどの影響もあり、志願倍率が昨

年度より下回った。今後、志願者の増加に向けて、大学の認知度向上を図る取組み等について、さらに強化することが求められる。

2 研究に関する目標

(1) 評価結果

評価	S	(中期計画の達成に向けて)特筆すべき進捗状況にある。
----	---	----------------------------

(2) 評価の判断理由

研究に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された30項目のうち、1項目が「IV 計画を上回って実施している」、29項目が「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」と認められ、すべてIVまたはⅢの評価であることや、学科の拡充・新設、入学定員の増員など将来を見据えた大学づくりに積極的に取り組んでいることなどを総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

- ・平成29年度には産業界のニーズの高い分野を強化・拡充し、「情報システム工学科」を「電子・情報工学科」へ、「環境工学科」を「環境・社会基盤工学科」へと変更するとともに、「医薬品工学科」を新設したところであるが、その諸々の準備等を迅速に押し進めた。
- ・「知能デザイン工学科」については、ロボット分野の教育研究を充実強化し、平成30年度に「知能ロボット工学科」に変更することとしているが、文部科学省との協議を終了するなど、所要の準備等を着実に進めた。
- ・看護学部の設立準備のため、県の設立準備委員会に理事長及び学長が委員として参画するとともに、教養教育課程の検討など県と共同で準備を進めた。

3 地域貢献に関する目標

(1) 評価結果

評価	A	(中期計画の達成に向けて)計画どおり進んでいる。
----	---	--------------------------

(2) 評価の判断理由

地域貢献に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された39項目のうち、1項目が「IV 計画を上回って実施している」、37項目が「III 概ね計画どおりに実施している」と認められたが、法人が「II 計画をやや下回っている」と自己評価した1項目(地域への優秀な人材の供給に係る県内就職の定着の取組み)については、実態として、計画を下回っているとまでは言えないことから、これらの状況を総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

地域課題解決への貢献として、少人数ゼミを中心に、地域との対話・交流・協働を行う地域協働授業について、昨年度を上回る70ゼミで実施するとともに、地域協働授業の教員向け運営マニュアルを作成するなど、教員の授業運営を支援した。

4 業務運営の改善及び効率化に関する目標

(1) 評価結果

評価	A	(中期計画の達成に向けて)計画どおり進んでいる。
----	---	--------------------------

(2) 評価の判断理由

業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された16項目のうち、1項目が「IV 計画を上回って実施している」、15項目が「III 概ね計画どおりに実施している」と認められ、すべてIVまたはIIIの評価であり、これらの状況を総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

公立大学法人化に合わせ、新たに構築した財務会計システム、人事給与システムを適切に運用するとともに、マイナンバーの実施に伴い、マイナンバー管理システムを構築し、電子化を図った。

5 財務内容の改善に関する目標

(1) 評価結果

評価	A	(中期計画の達成に向けて)計画どおり進んでいる。
----	---	--------------------------

(2) 評価の判断理由

財務内容の改善に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された11項目のうち、すべての項目が「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」と認められ、これらの状況を総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

科学研究費補助金などの競争的研究資金の申請に努め、その結果、科学研究費補助金については、採択件数、新規採択率ともに前年度を上回った。

6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標

(1) 評価結果

評価	A	(中期計画の達成に向けて)計画どおり進んでいる。
----	---	--------------------------

(2) 評価の判断理由

自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された4項目のうち、すべての項目が「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」と認められ、これらの状況を総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 特に評価する事項

大学機関別認証評価の受審に向けた自己評価書を作成・提出し、認証評価機関（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構）による訪問調査に適切に対応した結果、「富山県立大学は、大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学改革支援・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている。」と評価された。

7 その他業務運営に関する目標

(1) 評価結果

評価	B	(中期計画の達成に向けて)概ね計画どおり進んでいる。
----	---	----------------------------

(2) 評価の判断理由

その他の業務運営に関する目標を達成するための措置として年度計画に記載された 11 項目のうち、10 項目が「Ⅲ 概ね計画どおりに実施している」、1 項目が「Ⅱ 計画をやや下回っている」と認められ、Ⅲの評価の割合が 9 割以上であり、これらの状況を総合的に検証し、(1)に記載の評価に相当すると判断した。

(3) 今後の課題とする事項

安全管理、危機管理体制の強化を図る必要があることから、危機管理マニュアルを整備することが求められる。

〈参考1〉 小項目評価の集計結果

大項目	評価等	評価対象 項目数 (小項目)	Ⅳ 計画を上回って 実施している	Ⅲ 概ね計画どおり に実施している	Ⅱ 計画をやや 下回っている	Ⅰ 計画を大幅に 下回っている
第1 教育に関する目標を達成するための措置		76	2	71	3	
第2 研究に関する目標を達成するための措置		30	1	29		
第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置		39	1	37	1	
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置		16	1	15		
第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置		11		11		
第6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置		4		4		
第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置		11		10	1	
合計		(※)187	5	177	5	0

(※) 再掲の項目を含む。

〈参考2〉 項目別評価の結果

大項目	評価	S 特筆すべき 進捗状況にある	A 計画どおり 進んでいる	B 概ね計画どおり 進んでいる	C やや遅れて いる	D 重大な改善 事項がある
第1 教育に関する目標を達成するための措置			○			
第2 研究に関する目標を達成するための措置		○				
第3 地域貢献に関する目標を達成するための措置			○			
第4 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置			○			
第5 財務内容の改善に関する目標を達成するための措置			○			
第6 自己点検評価及び情報の提供に関する目標を達成するための措置			○			
第7 その他業務運営に関する目標を達成するための措置				○		